

青少年とタバコ等に関する 調査研究報告書

平成13年1月

総務庁青少年対策本部

ま え が き

法律により喫煙や飲酒が禁止されている未成年者が、タバコや酒類を容易に入手できるような社会環境については、青少年の健全な育成にとって大きな問題がある。

このため、総務庁青少年対策本部では、学識経験者及び府県青少年対策主管部局の担当者から成る「青少年環境問題調査研究会」(委員長 矢島正見 中央大学文学部教授)を設置して、青少年のタバコ等の接触実態等を把握し、青少年の問題行為・意識との関連等について、その分析を行った。

本報告書が、青少年の健全な発達を願う多くの人々の参考となれば幸いである。

終わりに、本調査の企画、実施及び分析に当たって多大の協力を頂いた矢島委員長を始め各委員の皆様並びに関係機関各位に対し、厚く御礼を申し上げる次第である。

平成13年1月

総務庁青少年対策本部
川 口 雄

青少年とタバコ等に関する調査研究報告書

目 次

第1章 調査の目的と方法	1
1. 調査の目的	1
2. 調査方法	1
(1) 調査対象	1
(2) 調査方法	1
(3) 調査期間	1
3. 調査機関	1
第2章 調査結果	3
1. 喫煙と飲酒に対する健康意識、規範意識	3
(1) 喫煙に対する健康意識	3
(2) 喫煙に対する規範意識	3
(3) 飲酒に対する健康意識	4
(4) 飲酒に対する規範意識	5
(5) 1997年調査の喫煙・飲酒に関する項目	5
2. 青少年の喫煙の実態	7
(1) 喫煙経験	7
(2) 喫煙量	7
(3) 喫煙場所	8
(4) タバコの購入	9
(5) 親からの注意	10
3. 青少年の飲酒の実態	10
(1) 飲酒経験	10
(2) 飲酒回数	11
(3) 飲酒場所	11
(4) 酒類の購入	12
(5) 親からの注意	13
4. まとめ	14

第1章 調査の目的と方法

1 調査の目的

青少年への影響が懸念される環境に関する一連の研究調査の一環として、今回調査では青少年の喫煙と飲酒に関する実態を調べ、少年の健全育成に向けた取り組みのための基礎資料を得ることを目的として、調査を実施した。

2 調査方法

(1) 調査対象

調査対象地は、福島県、神奈川県、新潟県、大阪府、香川県、長崎県の6府県である。

各府県から公立の中学校、高等学校を各3校選定し、各校の第2学年から3クラスを抽出し、クラスに在籍するすべての生徒を調査対象者とした。

記入不備の調査票を除いた集計対象者数は以下のとおりである。

中学生男子	962名
中学生女子	875名
高校生男子	1,192名
高校生女子	876名
合計	3,905名

(2) 調査方法

教室における一斉調査で、無記名である。記入後の調査票は、封筒に入れて密封し、回収され、下記の研究会に密封のまま提出された。

(3) 調査期間

調査は、平成12年10月に実施した。

3 調査機関

調査研究の企画、分析及び報告書の作成のため、青少年環境問題調査研究会を設置した。委員の構成は以下のとおりである。

(1) 学識経験者委員(50音順)

佐々木輝美	獨協大学外国語学部教授
田村 雅幸	科学警察研究所防犯少年部長
耳塚 寛明	お茶の水女子大学文教育学部教授
(委員長) 矢島 正見	中央大学文学部教授
山本 功	淑徳大学社会学部兼任講師
米里 誠司	科学警察研究所防犯少年部補導研究室主任研究官

(2) 青少年対策専門委員 (地方公共団体職員)

今泉 忠廣 福島県生活環境部青少年女性課長
井出由美子 神奈川県県民部青少年課長
丸山 仁 新潟県福祉保健部児童家庭課長
山下 満夫 大阪府生活文化部青少年課長
松本百合子 香川県生活環境部青少年女性課長
西平 千治 長崎県教育庁生涯学習課長

(3) 事務局

江原 伸一 総務庁青少年対策本部非行対策担当参事官
武田 正志 総務庁青少年対策本部非行対策専門官
佐久間淑年 総務庁青少年対策本部青少年指導専門職

第2章 調査結果

1 喫煙と飲酒に対する健康意識、規範意識

(1) 喫煙に対する健康意識

調査対象者全員にタバコの健康への害及び法的な規範についての認識をたずねた。設問は「あなたは、まだ20歳にならない人(未成年者)がタバコを吸うことについてどう思いますか」である。

喫煙の健康への害についての回答の選択肢は、「健康に害があるから、絶対にいけないことだと思う」「少しくらいであれば、それほど健康に害もなく、かまわないと思う」「言われるほどに害はなく、かまわないと思う」の3つである。結果を表1に示す。

表1 喫煙に対する健康意識

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
害があるから絶対いけない	79.0	79.2	60.7	67.5	70.9
少しくらいであればかまわない	17.2	18.5	30.9	27.6	24.0
言われるほどに害はなくかまわない	3.4	2.2	7.5	4.5	4.6
無回答	0.4	0.1	0.9	0.5	0.5
計	100%	100%	100%	100%	100%
	962人	875人	1,192人	876人	3,905人

「健康に害があるから、絶対にいけない」とするのは、中学生では男女とも8割、高校生では男子で6割、女子で7割である。逆に「言われるほどに害はなく、かまわないと思う」とする害の認識の薄いものは少数で、いずれも1割以下である。

(2) 喫煙に対する規範意識

喫煙の規範意識についての回答の選択肢は、「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」「20歳になるまで吸えなくても、しかたがないと思う」「大人が吸っているから、かまわないと思う」「本人の考えにまかせればいいと思う」の4つである。結果を表2に示す。

表2 喫煙に対する規範意識

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
法律で禁止されているから、いけない	48.8	49.5	22.4	28.8	36.4
20歳になるまで吸えなくても、しかたがない	15.2	14.5	10.5	14.0	13.3
大人が吸っているから、かまわない	1.8	1.6	2.5	1.8	2.0
本人の考えにまかせればいい	34.1	34.3	64.4	55.3	48.1
無回答	0.2	0.1	0.2	0.1	0.2
計	100%	100%	100%	100%	100%
	962人	875人	1,192人	876人	3,905人

「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」「20歳になるまで吸えなくても、しかたがないと思う」として、法律による規範を守ろうとする意見は、中学生では男女とも6割を超えている。高校生男子では3割、女子では4割である。逆に「本人の考えにまかせればいいと思う」とするのは、中学生では男女とも3割であるが、高校生では男子の6割、女子の5割となり、許容的な者が半数を超える。

以上の結果から、青少年の喫煙を規制しているのは、法律による規範というよりも、喫煙による健康への害の認識の方が強いと言えよう。

(3) 飲酒に対する健康意識

飲酒の健康への害及び法的な規範についての認識をたずねた。設問は「あなたは、まだ20歳にならない人(未成年者)が酒類(酒類とは、ビール、サワー類、ウイスキー、日本酒、焼酎、フルーツカクテル、ワイン等のアルコールを含むもの)を飲むことについてどう思いますか」である。

回答の選択肢は、「健康に害があるから、絶対にいけないことだと思う」「少くくればあれば、それほど健康に害もなく、かまわないと思う」「言われているほど害はなく、かまわないと思う」の3つであり、喫煙に関してと同様である。結果を表3に示す。

表3 飲酒に対する健康意識

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
害があるから絶対いけない	35.1	30.7	10.8	9.6	21.0
少くくればあればかまわない	50.0	55.5	58.4	66.9	57.6
言われるほどに害はなくかまわない	12.2	12.0	28.0	21.1	19.0
無回答	2.7	1.7	2.8	2.4	2.4
計	100%	100%	100%	100%	100%
	962人	875人	1,192人	876人	3,905人

「健康に害があるから、絶対にいけない」とするのは、中学生では男女とも3割で、高校生では男女とも1割と少数派になる。「少しくらいであれば、それほど健康に害もなく、かまわないと思う」のが多数派で、中学生で5割、高校生では6～7割になる。「言われているほど害はなく、かまわないと思う」とする者は、中学生で1割、高校生で2～3割である。飲酒の健康への害の認識は薄いと言える。

(4) 飲酒に対する規範意識

飲酒に対する法的な規範についての回答の選択肢は、「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」「20歳になるまで飲めなくても、しかたがないと思う」「大人が飲んでいるから、かまわないと思う」「本人の考えにまかせればいいと思う」の4つであり、喫煙に関してと同様である。結果を表4に示す。

表4 飲酒に対する規範意識

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
法律で禁止されているから、いけない	28.9	26.7	10.5	9.2	18.4
20歳になるまで飲めなくても、しかたがない	20.8	21.1	9.4	11.9	15.4
大人が飲んでいるから、かまわない	5.1	4.1	4.7	3.8	4.5
本人の考えにまかせればいい	42.3	46.3	72.8	73.1	59.4
無回答	2.9	1.7	2.6	2.1	2.4
計	100%	100%	100%	100%	100%
	962人	875人	1,192人	876人	3,905人

「法律で禁止されているから、いけないことだと思う」「20歳になるまで飲めなくても、しかたがないと思う」として、法律による規範を守ろうとする意見は、中学生では男女とも5割、高校生では男女とも2割である。逆に「本人の考えにまかせればいいと思う」とするのは、中学生では4～5割、高校生では7割である。飲酒に関しては、喫煙と比べてはるかに許容的である。

前項で青少年の喫煙を規制しているのは、法律による規範というよりも、健康への害の認識であるとしたが、飲酒に関しては法規範も健康への害の認識も弱い。

(5) 1997年調査の喫煙・飲酒に関する項目

総務庁青少年対策本部が行った「青少年の薬物認識と非行に関する研究調査」(平成10年)に喫煙及び飲酒の害と規範に関する同じ設問があるので、参考として次の表5～8にあげておく。

この調査の対象者数は中学生1,038名、高校生1,108名であるが、いずれも1～3年生を対象としている。また、調査対象地が異なること、学校が異なることなどから、本来、比較は不可能である。しかし、おおよその傾向を見るのには支障はなからう。結果としては、今回調査とほとんど同じ数字が出ている。

表5 1997年調査における「喫煙に対する健康意識」

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
害があるから絶対いけない	73.6	76.6	57.5	68.9	69.3
少しくらいであればかまわない	22.9	21.6	28.3	25.8	24.7
言われるほどに害はなくかまわない	2.0	1.2	11.9	3.2	4.4
無回答	1.5	0.6	2.3	2.1	1.6
計	100%	100%	100%	100%	100%
	538人	500人	480人	628人	2,146人

表6 1997年調査における「喫煙に対する規範意識」

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
法律で禁止されているから、いけない	44.1	44.4	20.2	29.8	34.6
20歳になるまで吸えなくても、しかたがない	16.5	14.6	7.7	13.1	13.1
大人が吸っているから、かまわない	2.0	1.0	2.3	2.2	1.9
本人の考えにまかせればいい	35.7	39.4	67.1	53.3	48.7
無回答	1.7	0.6	2.7	1.6	1.6
計	100%	100%	100%	100%	100%
	538人	500人	480人	628人	2,146人

表7 1997年調査における「飲酒に対する健康意識」

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
害があるから絶対いけない	33.3	32.2	10.4	13.9	22.2
少しくらいであればかまわない	56.3	58.2	70	75.8	65.5
言われるほどに害はなくかまわない	9.5	8.6	18.8	9.2	11.3
無回答	0.9	1.0	0.8	1.1	1.0
計	100%	100%	100%	100%	100%
	538人	500人	480人	628人	2,146人

表8 1997年調査における「飲酒に対する規範意識」

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
法律で禁止されているから、いけない	25.7	22.8	7.1	11.8	16.8
20歳になるまで飲めなくても、しかたがない	21.2	23.2	10.0	14.0	17.1
大人が飲んでいるから、かまわない	3.5	4.6	5.8	3.8	4.4
本人の考えにまかせればいい	48.5	48.4	76.0	69.6	60.8
無回答	1.1	1.0	1.0	0.8	1.0
計	100%	100%	100%	100%	100%
	538人	500人	480人	628人	2,146人

2 青少年の喫煙の実態

(1) 喫煙経験

調査対象者全員に、喫煙経験についてたずねた。設問は「この1年間に、タバコを吸ったことがありますか」である。回答の選択肢は「吸ったことがある」「吸ったことがない」の2つである。結果を表9に示す。

表9 この1年間の喫煙経験

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
吸ったことがある	10.7	6.4	24.4	12.2	14.3
吸ったことがない	89.3	93.6	75.6	87.8	85.7
計	100%	100%	100%	100%	100%
	962人	875人	1,192人	876人	3,905人

この1年間の喫煙経験者は中学生男子で1割、女子で6%、高校生男子で2割、女子で1割である。

参考資料として、1994年に青少年対策本部が行った「青少年と自動販売機等に関する調査研究」(平成7年)から同様の質問に関する結果を表10に示す。なお、こうした発生率に関しては、調査対象地も調査対象学校も異なるので、正式な比較はできないが、参考にはなる。今回調査は、94年調査とほぼ同じ数字であるが、男子高校生だけが10ポイント程度減少している。

表10 1994年調査における「この1年間の喫煙経験」

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
吸ったことがある	14.3	5.2	34.9	13.8	18.9
吸ったことがない	85.7	94.8	65.1	86.2	81.1
計	100%	100%	100%	100%	100%
	518人	519人	740人	471人	2,248人

(2) 喫煙量

以下の質問は、喫煙経験者に対してのみ尋ねている。

「どのくらい吸いますか」という設問に対する回答を表11に示す。1994年調査の同じ質問に対する回答も、参考としてともに表に示す。喫煙者だけを対象としているので、比較は許されるであろう。

中学生の喫煙者の半数は、「年に数本」というレベルである。「1日数本以上」の常習者レベルは、男女とも喫煙者の4分の1程度である。

高校生では、「1日数本以上」の常習者レベルが男子喫煙者の6割、女子喫煙者の3割である。

1994年調査との比較では、大きな変化はないが、中学生で常習者レベルの者がやや増加しているように見える。

表11 喫煙量

	中学生		高校生		全体					
	男子	女子	男子	女子	男子	女子				
	2000	1994	2000	1994	2000	1994				
1日2箱以上	5.8	1.4	0.0	0.0	1.7	3.1	1.9	1.5	2.3	2.4
1日1箱	6.8	6.8	7.1	7.4	17.9	19.8	5.6	16.9	12.4	16.3
1日数本	14.6	9.5	19.6	11.1	39.2	32.6	27.1	29.2	30.3	26.7
1週間に数本	10.7	17.6	17.9	11.1	7.9	7.4	16.8	9.2	11.1	9.7
1月に数本	14.6	8.1	7.1	7.4	8.2	7.4	10.3	12.3	9.7	8.3
年に数本	45.6	56.8	44.6	59.3	23.0	28.3	36.4	30.8	32.0	35.6
無回答	1.9	0.0	3.6	3.7	2.1	1.6	1.9	0.0	2.2	1.2
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	103人	74人	56人	27人	291人	258人	107人	65人	557人	424人

(3) 喫煙場所

喫煙者に対して、「どこで吸いますか」を複数回答でたずねた。結果を表12に示す。

「自分の家」「友だちの家」「公園や路上」が中学生、高校生ともに多い。ほか、高校生男子では「カラオケボックス」、「ファーストフード店・レストラン・食堂等」、「ゲームセンター」、「喫茶店」、「スナック・居酒屋等」なども多い。これらの場所に友人と遊びに行つて、タバコを吸うということであろう。高校生女子では、「カラオケボックス」、「ファースト

ストフード店・レストラン・食事等」も多い。中学生女子でも「カラオケボックス」が2割ほどあり、女子ではカラオケボックスに行く経験も多いようで、タバコを吸いやすい場所ともなっている。

1994年調査との比較では、大きな変化はないが、中学生、高校生とも「公園や路上」での喫煙が増加していて、人前で悪びれずにタバコを吸う傾向が強くなっていることがわける。

表12 喫煙場所（あてはまるものすべて）

	中学生		高校生				全体			
	男子		女子		男子		女子			
	2000	1994	2000	1994	2000	1994	2000	1994		
自分の家	41.7	51.4	58.9	59.3	58.4	70.9	72.0	72.3	58.0	67.0
友だちの家	22.3	37.8	44.6	29.6	61.9	65.1	46.7	60.0	49.9	57.3
公園や路上	55.3	41.9	46.4	51.9	68.7	57.4	50.5	40.0	60.5	51.7
駅や列車内	5.8	8.1	7.1	3.7	22.3	15.1	10.3	6.2	15.4	11.8
学校	10.7	12.2	7.1	11.1	9.3	14.0	1.9	13.8	7.9	13.4
喫茶店	2.9	5.4	1.8	3.7	23	23.6	8.4	20.0	14.4	18.6
ファーストフード店・ レストラン・食堂等	6.8	6.8	5.4	3.7	37.5	25.2	20.6	27.7	25.3	21.0
スナック・居酒屋等	2.9	0.0	0.0	0.0	17.9	19.8	13.1	26.2	12.4	16.0
カラオケボックス	7.8	12.2	21.4	18.5	48.5	39.5	42.1	38.5	37.0	33.3
ゲームセンター	8.7	10.8	14.3	11.1	33.3	21.7	3.7	1.5	21.2	16.0
その他	7.8	5.4	3.6	7.4	5.2	4.7	3.7	3.1	5.2	4.7
計	103人	74人	56人	27人	291人	258人	107人	65人	557人	424人

(4) タバコの購入

喫煙者に対して、「どこで入手することが多いですか」を複数回答でたずねた。結果を表13に示す。

「自動販売機で買う」が主で、次に「友だちにもらう」で、以下「タバコ屋で買う」、「スーパー・コンビニで買う」、「家にある」などとなる。中学生だと、自動販売機以外で買うことは少なく、友人からもらったり、家にあるものを吸う場合が多いが、高校生になると、自動販売機以外からも買う機会が多くなっている。男女差は少ない。

1994年調査との比較では、「スーパー・コンビニで買う」の増加が目立つ。コンビニ店の普及と青少年のコンビニ利用傾向の増大の結果であろう。「家にある」タバコを吸う者の減少も目立つが、これは大人世代の喫煙者の減少が影響しているのかもしれない。

表13 タバコの購入場所（あてはまるものすべて）

	中学生				高校生				全体	
	男子		女子		男子		女子		2000	1994
	2000	1994	2000	1994	2000	1994	2000	1994		
自動販売機	62.1	55.4	55.4	55.6	78.4	77.5	68.2	69.2	71.1	71.0
タバコ屋	4.9	9.5	12.5	0.0	24.1	18.6	3.7	12.3	15.4	14.9
スーパー・コンビニ	9.7	13.5	14.3	11.1	34.7	16.7	22.4	9.2	25.7	14.6
家にある	17.5	25.7	17.9	44.4	7.9	5.4	14.0	16.9	11.8	13.2
友だちにもらう	34.0	29.7	37.5	29.6	41.2	30.6	42.1	43.1	39.7	32.3
飲食店で買う	2.9	1.4	3.6	0.0	10.7	1.6	1.9	1.5	6.8	1.4
駅の売店	1.9	1.4	0.0	0.0	9.6	0.8	1.9	0.0	5.7	0.7
その他	2.9	1.4	7.1	3.7	2.4	1.6	0.9	0.0	2.7	1.4
計	103人	74人	56人	27人	291人	258人	107人	65人	557人	424人

(5) 親からの注意

「タバコを吸って、親から注意されたことがありますか」をたずねた。結果を表14に示す。

高校生男子以外は、「親は知らない」という回答が多く、ほぼ半数をしめる。中学生、高校生とも、注意されたことの「ある」者のほうが、「ない」者よりも多い。

1994年調査との比較では、各群で変化が見られるが、全体として一定の傾向が見られるわけではない。

表14 喫煙で親から注意されたこと

	中学生				高校生				全体	
	男子		女子		男子		女子		2000	1994
	2000	1994	2000	1994	2000	1994	2000	1994		
ある	27.2	36.5	33.9	11.1	46	48.8	20.6	36.9	36.4	42.5
ない	18.4	25.7	12.5	33.3	20.6	27.5	14	21.5	18.1	26.7
親は知らない	44.7	37.8	51.8	55.6	28.5	22.9	55.1	40	39	30.2
無回答	9.7	0.0	1.8	0.0	4.8	0.8	10.3	1.5	6.5	0.7
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	103人	74人	56人	27人	291人	258人	107人	65人	557人	424人

3 青少年の飲酒の実態

(1) 飲酒経験

調査対象者全員に、飲酒経験についてたずねた。設問は「この1年間に、酒類を飲んだことがありますか」である。回答の選択肢は「飲んだことがある」「飲んだことがない」の2つである。結果を表15に示す。

表15 この1年間の飲酒経験

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
飲んだことがある	47.7	42.5	73.1	67.2	58.7
飲んだことがない	52.3	57.5	26.9	32.8	41.3
計	100%	100%	100%	100%	100%
	962人	875人	1,192人	876人	3,905人

この1年間の飲酒経験者は中学生男子で5割、女子で4割、高校生では男女とも7割で、喫煙に比べてはるかに多い。

参考資料として、先に示した「青少年と自動販売機等に関する調査研究」(平成7年)から同様の質問に関する結果を表16に示す。今回調査は、94年調査とほぼ同じ数字であるが、女子高校生だけが10ポイント程度減少している。

表16 1994年調査における「この1年間の飲酒経験」

	中学生		高校生		全体
	男子	女子	男子	女子	
飲んだことがある	50.4	46.2	78.6	77.7	64.5
飲んだことがない	49.6	53.8	21.4	22.3	35.5
計	100%	100%	100%	100%	100%
	518人	519人	740人	471人	2,248人

(2) 飲酒回数

以下の質問は、飲酒経験者に対してのみ尋ねている。

「どのくらいの回数で飲んでいますか」という設問に対する回答を表17に示す。1994年調査の同じ質問に対する回答も、参考としてともに表に示す。これも飲酒者だけを対象としているので、比較は許されるであろう。

中学生の飲酒者の6割は、「年に数回以下」というレベルである。「週1回以上」の常習者レベルは、男女とも飲酒者の1割程度である。

高校生でも、「週1回以上」の常習者レベルが男女とも飲酒者の1割程度である。

1994年調査との比較では、大きな変化はないが、中学生で常習者レベルの者がやや増加している。

表17 飲酒回数

	中学生		高校生				全体			
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
	2000	1994	2000	1994	2000	1994	2000	1994		
週2・3回以上	5.2	2.7	3.5	1.7	5.4	6.5	2.4	2.2	4.3	3.9
週1回位	10.5	5.4	8.3	5.0	9.1	12.5	6.5	5.5	8.6	8.2
月2・3回	10.7	11.1	12.1	5.8	19.3	21.3	16.8	13.1	15.8	14.8
月1回位	10.7	8.8	9.4	11.3	17.6	17.5	14.3	18.3	14.0	15.1
年に数回	35.9	41.4	37.9	43.3	39.4	36.9	49.1	47.0	40.9	41.3
年に1回	26.1	30.3	27.2	30.0	8.5	4.6	10.2	13.4	15.5	15.7
無回答	0.9	0.4	1.6	2.9	0.8	0.5	0.8	0.5	1.0	0.9
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	459人	261	372	240	871	582	589	366	2,291	1,449

(3) 飲酒場所

飲酒者に対して、「どこで飲みますか」を複数回答でたずねた。結果を表18に示す。

「自分の家」が中学生、高校生ともに圧倒的に多い。

ほか、高校生では「友だちの家」が多く、以下「スナック・居酒屋等」、「カラオケボックス」、「公園」、「レストラン・食堂等」などとなっている。飲酒場所に関しては、男女でほとんど差がないのが、喫煙と異なるところである。

1994年調査との比較では、大きな変化はないが、高校生で「公園」での飲酒がやや増加している。「路上」も同様である。これらはもともとの数値が小さいが、増加の傾向が見られるのは、喫煙と同様である。コンビニ前の路上にたむろする傾向や、ジュースに似た缶入りのドリンク類の販売が影響していると思われる。

表18 飲酒場所(あてはまるものすべて)

	中学生		高校生				全体			
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
	2000	1994	2000	1994	2000	1994	2000	1994		
自分の家	81.7	84.7	88.4	92.1	71.0	75.1	74.0	66.4	76.7	77.4
友だちの家	8.7	8.0	10.5	5.0	47.2	49.0	41.8	44.5	32.1	33.2
公園	5.2	5.4	3.0	4.2	13.5	7.9	11.7	6.8	9.7	6.6
カラオケボックス	2.2	4.2	3.2	3.3	12.1	18.0	11.5	16.1	8.5	12.6
スナック・居酒屋等	2.8	3.4	4.3	0.8	18.1	19.9	17.8	26.5	12.7	15.5
レストラン・食堂等	8.7	5.0	6.5	4.6	11.0	6.7	8.7	7.1	9.2	6.1
ディスコ	0.7	0.0	0.0	0.0	0.7	0.7	0.5	0.3	0.5	0.3
路上	4.6	7.3	3.8	1.7	9.2	5.5	7.1	4.9	6.9	5.0
駅や列車内	0.4	0.4	0.3	0.0	0.3	0.2	0.2	0.3	0.3	0.2
その他	9.8	5.4	6.2	2.5	4.7	2.6	3.9	1.6	5.8	2.8
計	459人	261	372	240	871	582	589	366	2291	1449

(4) 酒類の購入

飲酒者に対して、「どこで入手することか多いですか」を複数回答でたずねた。結果を表19に示す。

「家にある」が中学生、高校生とも主である。以下、「スーパー・コンビニで買う」、「酒屋で買う」、「店で飲んだ」、「自動販売機で買う」などとなる。中学生だと、自動販売機以外で買うことは少ないのはタバコの場合と同様である。

1994年調査との比較では、タバコの場合と同様に「スーパー・コンビニで買う」の増加が目立つ。逆に「自動販売機で買う」の減少は、自販機での販売の時間規制、年齢規制の効果が出ていると思われる。

表19 酒類の購入場所（あてはまるものすべて）

	中学生		高校生				全体			
	男子		女子		男子		女子			
	2000	1994	2000	1994	2000	1994	2000	1994		
自動販売機	5.7	13	5.1	7.5	17.6	31.6	8.8	14.8	10.9	20.0
酒屋	7.4	6.5	5.9	9.6	27.1	29.9	20.4	29.2	18.0	22.2
スーパー・コンビニ	10.7	15.7	14.8	14.2	45.8	27.0	51.6	29.0	35.2	23.3
家にある	63.6	72.8	70.4	80.4	48.6	45.2	53.1	45.6	56.3	56.1
友だちにもらった	6.1	3.8	4.3	3.3	13.8	11.2	10.5	13.4	9.9	9.1
店で飲んだ	10.5	5.7	7.3	1.7	21.0	14.3	20.9	22.1	16.6	12.6
その他	13.7	5.0	13.7	1.3	4.9	1.2	3.9	0.8	7.9	1.8
計	459人	261	372	240	871	582	589	366	2291	1449

(5) 親からの注意

「酒類を飲んで、親から注意されたことがありますか」をたずねた。結果を表20に示す。

タバコと異なり、「親は知らない」という回答は少ない。また中学生、高校生とも、注意されたことの「ない」者が7割をしめている。親も飲酒に関しては、許容的であることを示していよう。

1994年調査との比較では、中学生、高校生とも、注意されたことの「ない」者がわずかではあるが増加の傾向を示している。

表 2 0 飲酒で親から注意されたこと

	中学		高校生				全体			
	男子	女子	男子	女子	男子	女子	男子	女子		
	2000	1994	2000	1994	2000	1994	2000	1994		
ある	22.9	18.4	20.2	12.9	24.0	26.6	16.1	18.9	21.1	20.9
ない	70.8	64.0	72.0	67.1	66.0	58.9	70.5	65.0	69.1	62.7
親は知らない	4.6	15.7	6.5	13.8	8.7	12.9	11.2	14.8	8.2	14.0
無回答	1.7	1.9	1.3	6.3	1.3	1.5	2.2	1.4	1.6	2.3
計	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%
	459人	261	372	240	871	582	589	366	2291	1449

4 まとめ

青少年の喫煙と飲酒の実態に関して調査を行った。基本的には、数年前の状況と比べて、大きな変化はなかった。

変化として目立つ点は、公園や路上などでの喫煙、飲酒が増加したこと。酒類、タバコの購入に関しては、スーパーやコンビニから買う者が増加したこと。酒類に関しては、自動販売機の利用が減少したが、それは販売の時間・年齢規制の影響と考えられた。